

学長定例記者会見要項

日 時： 令和6年4月4日（木） 11:00～11:45

場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

発表事項

1. 城戸淳二氏に山形大学フェローの称号授与
2. 鶴岡市と山形大学は災害対策等の推進に関する協定を結びました
3. 魚醤の食文化―飛島魚醤からはじめる―～山形の魚醤を追う学術ルポ「研究者、魚醤と出会う。―山形の離島・飛島塩辛を追って」刊行～
4. 「創造都市・山形展」「日本万華鏡 2024」をボローニャ大学附属博物館で開催しました！
5. 企業等の成長を牽引するコア人材を育成します！
「やまがた共創塾 地域産業コア人材育成プログラム」が始動
6. 「まちの記憶を残し隊」公式ウェブサイトが完成！～名誉顧問に“大王”後藤ひろひと氏が就任＆山形大学公認サークルへ！～
7. 「蔵王火山共同研究所」の写真が見つかりました～昭和15年、蔵王のお釜の中に開所～



お知らせ

1. ラフさんと発見!データで深掘りかみのやまの西洋ナシ展の開催―上山市立図書館にて開催―
2. 「最上義光講演会～最上義光研究最前線」開催のお知らせ

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和6年5月9日（木） 11:00～11:45

場 所：法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

学長定例記者会見（4月4日）発表

1. 城戸淳二氏に山形大学フェローの称号授与

学 長

山形大学 フェロー

た ま て ひ で と し
玉 手 英 利
き ど じ ゅ ん じ
城 戸 淳 二

2. 鶴岡市と山形大学は災害対策等の推進に関する協定を結びました

学術研究院（理学部担当） 教授

学術研究院（地域教育文化学部担当） 講師

も と や ま い さ お
本 山 功
く ま が い ま こ と
熊 谷 誠

3. 魚醤の食文化―飛島魚醤からはじめる―山形の魚醤を追う学術ルポ「研究者、魚醤と出会う。― 山形の離島・飛島塩辛を追って」刊行～

学術研究院 准教授（学士課程基盤教育院主担当）

学術研究院 教授（人文社会科学部主担当）

学術研究院 教授（理学部主担当）

しろ い し て つ や
白 石 哲 也
まつ も と ご う
松 本 剛
おく の た か し
奥 野 貴 士

4. 「創造都市・山形展」「日本万華鏡 2024」をボローニャ大学附属博物館で開催しました！

学術研究院 教授（山形大学附属博物館学芸研究員）

山形大学 特任教授

さ と う こ と
佐 藤 琴
や ま も と は る ふ み
山 本 陽 史

5. 企業等の成長を牽引するコア人材を育成します！

「やまがた共創塾 地域産業コア人材育成プログラム」が始動

学術研究院（人文社会科学部担当）准教授

か き ざ き し ん や
柿 崎 慎 也

6. 「まちの記憶を残し隊」公式ウェブサイトが完成！～名誉顧問に“大王”後藤ひろひと氏が就任&山形 大学公認サークルへ！～

人文社会科学部人文社会学科3年

人文社会科学部人文社会学科3年

人文社会科学部人文社会学科2年

す ず き り ゅ う せ い
鈴 木 琉 星
す ず き じ ゅ ん た
鈴 木 淳 太
か た ざ り ゆ う す け
片 桐 悠 輔

7. 「蔵王火山共同研究所」の写真が見つかりました～昭和15年、蔵王のお釜の中に開所～

山形大学蔵王樹氷火山総合研究所 副会長

や な ぎ さ わ ふ み た か
柳 澤 文 孝

令和6年（2024年）4月4日

城戸淳二氏に山形大学フェローの称号授与

山形大学は、2024年4月1日付けで、城戸 淳二 氏 に山形大学フェローの称号を授与しました。

山形大学フェロー制度は、令和5年度（令和6年3月27日施行）に新たに創設したもの。本学を退職した教員のうち、次のいずれかに該当し、かつ、その専門分野において極めて高い業績を有し、本学の教育研究の発展に特に顕著な功績があり、本学における教育研究の活性化に寄与すると認められる者に対して、本学が授与します。

- (1) ノーベル賞受賞者、文化勲章受章者、文化功労者、紫綬褒章受章者又は日本学士院賞受賞者
- (2) 前号に準ずる卓越した業績を有する者

このたび、山形大学フェローの第1号として、城戸 淳二 氏 を決定しました。

城戸淳二氏は、65歳。専門は、有機エレクトロニクス、有機デバイス工学。大阪府出身。1989年、米国・ポリテクニク大学（現ニューヨーク大学）大学院博士課程修了、工学博士。同年に本学着任。有機EL素子の分野において、新規材料の創製、新規素子構成の提案、製造プロセスの考案など独創的かつ先導的な研究を展開。有機ELの研究・開発の第一人者として、本学を国内外有数の有機エレクトロニクス研究拠点に発展させた中心的な研究者。2013年、紫綬褒章を受章している。

2024年3月31日をもって本学を定年退職。4月から、本学特任教授として着任している。

担当
山形大学総務部長 東海林
023-628-4008
yu-koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

令和6年（2024年）4月4日

鶴岡市と山形大学は災害対策等の推進に関する協定を結びました

【本件のポイント】

- 令和元年（2019年）6月の山形県沖地震、令和4年（2022年）12月31日の鶴岡市西目の土砂災害、令和6年（2024年）元日の能登半島地震による津波などのたびかさなる自然災害を背景に、鶴岡市と山形大学は今後の災害対策等の推進を目的とした協定を結び、3月18日に鶴岡市役所にて締結式を行いました。
- 災害対策の推進のために、鶴岡市と山形大学が連携・協力して事前から防災教育・災害研究等に取り組みます。山形大学が災害・防災に関して自治体と協定を結ぶのは初めてのことです。
- 鶴岡市市民部防災安全課と山形大学災害環境科学研究ユニットが連携・協力の実務を担い、災害環境科学研究ユニットは災害対応に関する鶴岡市からの相談に対して学術的な見地から助言を行います。



協定書を携える皆川治市長（右）と本山ユニット長（令和6年3月18日鶴岡市役所にて）

【概要】

令和4年（2022年）12月31日の未明に鶴岡市西目で土砂崩れによる災害が発生し、全国的なニュースにもなった。これは大雨など明確な原因のない突然の現象だったため、地形・地質・気象・水文条件などの要因が議論を呼び、山形県全体で土砂災害警戒区域等の点検を行うきっかけにもなった。鶴岡市では2019年6月の山形県沖地震でも顕著な建物被害が生じ、津波注意報が発令され、地震時の地域住民の避難行動が課題として浮かび上がり、鶴岡市と山形大学の研究者（村山良之・熊谷 誠）により連携した取り組みがなされている。鶴岡市西目の土砂災害では、災害環境科学研究ユニットの複数人のメンバーで原因究明のための現地調査を行った。このような自然災害に関するこれまでの山形大学と鶴岡市の連携・協力を背景に、今後の災害リスクに対応するため、連携・協力関係の強化を目的として、令和5年度に入って鶴岡市から災害環境科学研究ユニットに協定締結の打診があり、これを受けて10月から協定文書の作成を開始、協議を重ねて令和6年3月に合意に至り、3月18日に鶴岡市役所において締結式を行い、皆川 治市長と本山 功災害環境科学研究ユニット長との間で協定書を取り交わした。

【協定の内容】

協定の名称：鶴岡市と国立大学法人山形大学との災害対策等の推進に関する協定

締結年月日：令和6（2024）年3月18日

期間：令和8（2026）年2月28日まで（以後1年ごとに延長）

連携・協力項目：

- （1）自然災害等及び災害対策に関わる相談・助言・教育・研究に関すること。
- （2）自主防災組織や住民の防災・減災に関すること。
- （3）自然災害等が発生した場合等に鶴岡市が実施する災害対応に関する相談・助言。
- （4）その他目的を達成するために必要と認める事項。

連絡責任者：鶴岡市市民部防災安全課、および山形大学災害環境科学研究ユニット

お問い合わせ

学術研究院教授 本山 功（地質学）／理学部担当（災害環境科学研究ユニット長）

TEL 023-628-4776 メール i-motoyama@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

令和6年（2024年）4月4日

魚醤の食文化―飛島魚醤からはじめる― ～山形の魚醤を追う学術ルポ 「研究者、魚醤と出会う。―山形の離島・飛島塩辛を追って」刊行～

【本件のポイント】

- 近年の地球温暖化による海水温の上昇や乱獲によってイカが不漁になり、さらには島民の高齢化も相まって途絶えようとしている飛島魚醤（塩辛）。
- 白石哲也准教授・松本剛教授・奥野貴士教授により、物質文化・人と文化・生化学を3つの柱に飛島魚醤を捉え、保存していく取組みを始めました。
- 写真家や編集者、料理人などもチームに加わり、今後、研究チームでは国内外の魚醤文化について研究を進めていく予定です。
- このたび、本研究に関する学術ルポ「研究者、魚醤と出会う。―山形の離島・飛島塩辛を追って」が刊行されましたのでお知らせします。

【概要】

飛島魚醤（塩辛）をご存じでしょうか？山形県の離島・飛島では、江戸時代から現代まで豊富なイカ漁に支えられ、大量のイカを用いた魚醤塩辛を作る食文化が存在します。しかし、近年の地球温暖化による海水温の上昇や乱獲によってイカが不漁になり、さらに島民の高齢化も相まって、魚醤づくりが途絶えようとしています。そこで、白石哲也准教授・松本剛教授・奥野貴士教授により、物質文化・人と文化・生化学を3つの柱に飛島魚醤を捉え、保存していく取組みを始めました。加えて、この取組みには、研究者だけでなく、写真家や編集者、料理人の方などにもチームに加わって頂いています。これは、一部の研究者だけでなく、魚醤を通じて広く社会一般の方々と繋がることを強く意識しているためです。この取組みを基礎として、今後、研究チームでは国内外の魚醤文化について研究を進めていく予定です。

このたび、本研究に関する学術ルポ「研究者、魚醤と出会う。―山形の離島・飛島塩辛を追って」が刊行されましたのでお知らせします。

【研究成果】

本研究は、2022年公益財団法人ロッセ財団第9回奨励研究助成（B）「魚醤の起源を探る―日本人はいつから魚醤を食べるようになったのか―」（代表：白石哲也）、2023年度秋田県ジオパーク研究助成金「「飛島魚醤」の食文化史」（代表：白石哲也）と連続で採択されました。また、第2回山形大学異分野交流学会（2023年8月29日）において学長賞を受賞しました。

【今後の展望】

現在 YU-COE(S)公募研究として、飛島塩辛のルーツである「いしり」の現地調査を能登で行う予定です。そして、これまでの研究で明らかになった仕込み方法をもとに新しい魚醤造りを行い、それを事業化することで、飛島や能登で消滅の危機にある魚醤および発酵調味料文化を振興しようという計画です。これには山形大学及び水産研究所の共同研究として、飛島の方々にも参加いただき、「最高に美味しい魚醤」を造ります。

魚醤は、ただ製作方法を保存したところで、それは何も意味をなさないし、次世代には繋がりません。そこには、人とモノ（道具）、そして地域環境と社会があります。それらが有機的に繋がることで、本当の記録、保存となります。また、それを伝達していくには、閉じた世界（研究者や製作者）を超えて、外の世界の人々と繋がる必要不可欠です。本研究を通して、変容はあるかも知れない（あって良い）が、その本質は失われず、現代的価値と伝統的価値の両者を持った新たな価値を魚醤に持たせることが可能となり、魚醤が次世代に繋がっていくことが期待されます。



お問い合わせ

学術研究院准教授 白石哲也／学士課程基盤教育院担当

TEL 023-628-4614 メール tshiroishi@cc.yamagata-u.ac.jp

山形の研究者たちによる 山形の魚醤を追う学術ルポ！ついに刊行！

『研究者、^{ぎょしょう}魚醤と出会う。 ——山形の離島・飛島塩辛を追って』

編著者：白石哲也、松本剛、奥野貴士（山形大学）

著者：高木牧子、五十嵐悠（水産研究所）、
渡部陽子（沢口旅館）、高橋恵美子（umui）

小倉ヒラク（発酵デザイナー）推薦！

「海と人が溶け合う、人類学のうまみの一滴」

●本書の紹介

山形県の離島・飛島^{とびしま}では「魚醤」が作られているという。
日本の三大魚醤と言えば、秋田のしょつつる、石川のいしる、
香川のいかなご醤油であり、どれも液体状の調味料だが、
飛島の魚醤「飛島魚醤」は、島の人たちから「いかの塩辛」と呼ばれてきた。
固形なのか液体なのか、いったいどんな食べ物なのか。

そのような「飛島魚醤」「いかの塩辛」の作り手は
2023年に確認できた限り、残り2世帯である。
山形大学に所属する研究者3人に、
水産業の今を知る山形県水産研究所の研究者2人が合流し、
飛島へ現地調査に向かう。

失われつつある文化に、どのように向き合っていくのか。
考古学、人類学、生物物理学、水産業、さまざまな角度から追及していく。
山形県の料理人による飛島魚醤レシピも付す。

●書誌情報

刊行日：2024年3月末

本体価格：1900円（＋税）

A5判並製、フルカラー、228頁 ISBN：978-4-86766-037-9

刊行元：文学通信

●編著者紹介

白石哲也（しろいし てつや）

山形大学学術研究院（学士課程基盤教育院担当）・准教授
研究分野は考古学。

松本剛（まつもと ごう）

山形大学学術研究院（人文社会科学部担当）・教授
研究分野は人類学。

奥野貴士（おくの たかし）

山形大学学術研究院（理学部担当）・教授
研究分野は生物物理学。



●著者への取材申し込み、

本に関するお問い合わせはこちら

文学通信 編集部・松尾

<https://bungaku-report.com/>

電話 03-5939-9027 FAX03-5939-9094

info@bungaku-report.com

令和6年（2024年）4月4日

ボローニャ大学附属博物館・山形大学附属博物館 交流協定締結5周年記念事業

「創造都市・山形展」「日本万華鏡2024」を ボローニャ大学附属博物館で開催しました！



江戸時代の山形は紅花産業が盛んだったことを紹介



ポッジ宮殿ウリッセの間で着物について講演

【本件のポイント】

- 山形大学附属博物館は、2019年にボローニャ大学附属博物館と交流協定を締結した。
- コロナ禍で往来が出来なかった期間もオンラインイベントで交流を継続し、2024年に5周年を迎えた。これを記念してボローニャ大学附属博物館の本部があるポッジ宮殿の第4教室で「創造都市・山形展」（期間：2024年3月2日～4月1日）を開催した。
- 「日本万華鏡」は、ボローニャ大学附属博物館（Sistema Museale di Ateneo）、東洋美術研究所（Centro Studi d'Arte Estremo-Orientale）、山形の市民団体「チェントロ・パルティコ研究会」が協働して実施する、ボローニャ市民向けの日本文化体験イベントの総称。2019年から実施し、今回6回目を迎えた。

【創造都市・山形展】

会期：2024年3月2日（土）～4月1日（月）

会場：ボローニャ大学附属博物館（ポッジ宮殿）第4教室

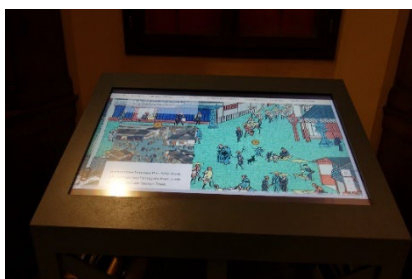
ボローニャと山形市の共通点である文化を活かしたまちづくりについてとりあげた。最上義光による城下町の整備、出羽三山参詣と紅花産業がもたらした賑わい、松尾芭蕉の山寺来訪などである。2018年にユネスコの文化創造都市に映画部門で加盟をはたした山形市の今も写真・動画等で展示した。加えて山形大学附属博物館と結髪土偶も紹介した。展示制作にあたっては、関係機関の協力を得た。



列品作業



展示室全体（ボローニャ大学図書館の一室でもあるため両側に書棚がある）



タッチパネル（浮世絵の細部を拡大など）



動画

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

【日本万華鏡2024】

◆ギャラリートーク「着物の文様にみる幸せへの願い2」

話者：佐藤琴

日時：2024年3月2日（土）16:00～17:00

参加者：70人

◆ギャラリートーク「紅花産業と水運がもたらした山形の文化的繁栄」

話者：山本陽史

日時：2024年3月7日（木）17:00～18:00

参加者：30人

◆着物体験

日時：2024年3月8日（金）17:00～18:00

参加者：60人（事前申込）

◆お茶会体験

日時：2024年3月10日（日）16:30～17:30

参加者：60人（事前申込）

◆子ども向けワークショップ

●姉様人形をつくろう

日時：2024年3月9日（土）10:30

参加者：8人（事前申込）

●俳句を詠んでみよう

講師：武田菜美（俳句講師・チェントロ・ポルティコ研究会）

日時：2024年3月9日（土）15:30

参加者：5人（事前申込）

【全体を通して】

記者会見でのロベルト・バルツィアーニ館長の挨拶にもあったが、単なる展示や紹介にとどまらず、人と人の交流と日本文化体験ができる希有なイベントとして評価されている。このほか、ポローニャ大学附属博物館職員に資料（屏風・掛軸、和本）の取扱いを教えるセミナーを実施し、お互いの博物館活動にも良い刺激を与え合うことができた。

【助成および協力機関】

助成：公益財団法人カメイ社会教育振興財団（仙台市）

協力：山形まちづくり株式会社・山形伝統芸能振興株式会社（やまがた紅の会）・やまぎん県民ホール

山寺芭蕉記念館・最上義光歴史館・奥の細道マイスターの会・チェントロ・ポルティコ研究会

有限会社ホワイトラビット・合同会社AMANE・山形市・山形大学地域共創STEAM教育推進センター

山形大学学生サークル「まちの記憶を残し隊」



チラシ



着物体験



お茶会体験



姉様人形をつくろう



俳句をつくろう



職員向けセミナー「和本の取扱い」

お問い合わせ

学術研究院准教授 佐藤琴（附属博物館 学芸研究員）

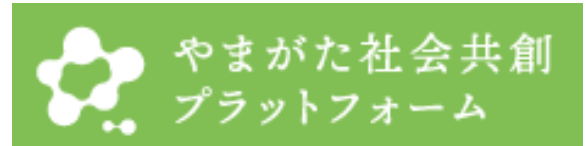
TEL 023-628-4930 メール koto-s@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

令和6年（2024年）4月4日

企業等の成長を牽引するコア人材を育成します！ 「やまがた共創塾 地域産業コア人材育成プログラム」が始動

【本件のポイント】

- 「やまがた社会共創プラットフォーム」の事務局を務める山形大学は、文部科学省の令和4年度「地域ニーズに応える産学官連携を通じたりカレント教育プラットフォーム構築支援事業」に採択された。
- 本事業により、今年5月から組織や事業の成長を牽引していくコア人材の育成を希望する**山形県内の企業団体を対象とした「やまがた共創塾 地域産業コア人材育成プログラム」を初めて開講**する。
- 本プログラムの継続的な実施により、「地域人材育成」「地域産業振興」等の「やまぶら」初期戦略に貢献していく。



【概要】

文部科学省の令和4年度「地域ニーズに応える産学官金医を通じたりカレント教育プラットフォーム構築支援事業」に、本学が企画した「山形県における包括的な産学官金医連携の枠組みを活用した地域リカレント教育の定着促進サイクル」採択されました（全国で12機関が採択）。

これは、昨年度構築した“オール山形”による「やまがた社会共創プラットフォーム（通称：やまぶら）」の枠組みを活用したもので、本事業により県内企業・団体におけるリカレント教育ニーズ調査を実施し（※1）、その結果を踏まえ、**組織や事業の成長をけん引していくコア人材の育成を希望する山形県内の企業・団体を対象に来年度5月より「やまがた共創塾 地域産業コア人材育成プログラム」を初めて開講**します。

本プログラムは、山形大学において質の高い起業家育成教育の実績があるアントレプレナーシップ教育研究センターの小野寺忠司センター長を塾長に、山形県よろず支援拠点等の協力を得ながら構築し、次の3つの特長をもちます。

- ① 地域産業のニーズに応えたカスタムメイドプログラム
- ② 経営シミュレーションなどに重点を置いた実践的な講義
- ③ 5か月・60時間のインターバル型リカレント教育

<プログラム概要>

- 履修期間：5カ月（令和6年5月24日（金）開講→同10月25日（金）修了予定）
 - 受講料：20万円
 - 開講場所：山形大学小白川キャンパス
 - 受講方式：原則 対面方式（実践重視の教育のため）
 - 講義時間：計60時間
 - 修了要件：（1）全時間数のうち8割の出席 （2）講義ごとに提出する課題の点数が合格ラインであること
 - 応募資格：高等学校卒業者等の大学入学資格を有している方
 - 募集定員：30名（企業・団体から複数名の受講可能、最低開講数は10名）
 - 応募方法：（1）受講申込書（所定様式）を郵送・持参又はWEB応募フォームから申し込み
 - 応募締切：令和6年4月30日（火）
- ⇒講師陣、開講スケジュール等の詳細、申し込み先は別添資料をご参照願います。

お問い合わせ

国立大学法人山形大学 総務部総務課 社会共創推進事務室 樋口、石澤
（やまがた社会共創プラットフォーム事務局）

TEL 023-628-4615 メール yu-shakaikyousou@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

やまがた共創塾 地域産業コア人材 育成プログラム

Core Human Resources Development Program for Regional Industry

令和6年度 受講者募集要項

＼ プログラム説明動画はこちら！ ／

地域産業コア人材育成プログラム
概要説明動画（約5分）



山形大学
Yamagata University

企業・団体の中核として組織や事業の成長を牽引していくコア人材の育成を後押しします。

高齢化や人口減など様々な地域課題があるなか、山形県にとって継続的な産業人材の育成が喫緊の課題となっています。これらの課題を解決し、地域経済や産業の活力を維持・向上させていくため、各企業・団体の中核として組織や事業の成長を牽引していくコア人材を育成する教育プログラムが必要とされています。

本プログラムは、やまがた社会共創プラットフォームにおけるリカレント教育として山形大学が企画・運営する、産学官連携による人材育成プログラムです。プログラム修了者には、山形大学の『地域産業コア人材育成プログラム修了証』を授与します。

プログラムの特長

1

地域産業の ニーズに応えた カスタムメイドプログラム

令和5年度に実施した企業等団体・個人へのアンケート及びヒアリング結果に基づき、そのニーズに応える内容で構成された教育プログラムです。産業界から多数の実務家講師が授業を担当いたします。

2

経営シミュレーション などに重点を置いた 実践的な講義

多くの優良企業の研修にも採用されているシミュレーション教材を使用します。経営視点を持って意思決定する体験を通し、コア人材としての実践力を身につけることができます。

3

5ヶ月・60時間の インターバル型 リカレント教育

隔週金曜日（一部土曜日）に開講する5ヶ月・60時間の教育プログラムです。時間をかけて体系的に学ぶことで、コア人材に必要な力を着実に身につけることができます。

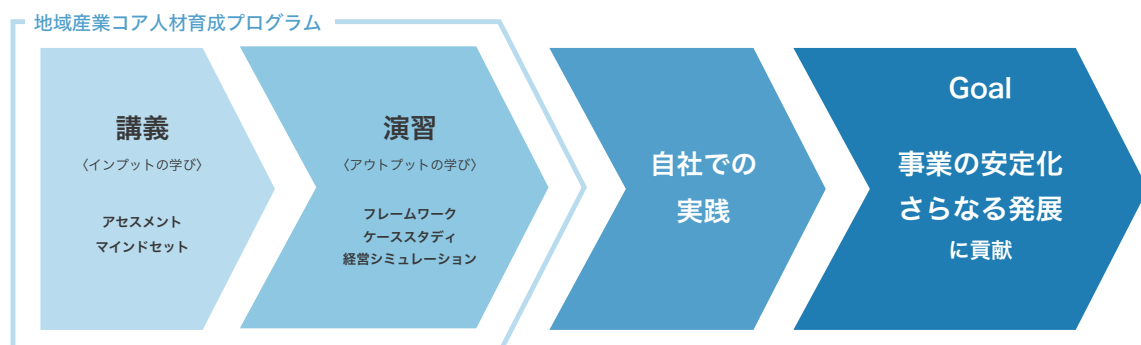
対象者

組織や事業の成長を牽引していくコア人材の育成を希望する企業・団体。

中堅層・プレマネジメント層・管理者層におすすめ。

※業種は問いません。公務員の方の参加も歓迎。

コア人材育成のイメージ



1 オリエンテーション

本プログラムの流れと期待について説明。また受講者は事前にオンラインでアセスメントを受け、自身の強みを理解しておき、それを自己紹介に使う。

(※受講者の所属企業の経営者または、担当役員も参加)

2 組織経営 リーダーシップ

組織経営のあり方は環境変化と経営戦略に従う。
自分は「なぜ学ぶのか、何をめざし、何を実現したいのか」を人と組織と経営の視点から再検討し、その実現のために自身に必要なリーダーシップを探る。

3 財務

財務三表を理解し、事業活動の「何」が財務に影響するかを学ぶ。また自分の本業での役割が自社の財務でどのように影響するかも理解をする。

4 ヒューマンリソース開発

経営者から新入社員まで、チームの個人に焦点を当てた活性化と成長のポイントをつかむ。
それぞれの個性やもち味を活かす「人と人」「仕事と働き方」の組合せを探り、「やる気、やりがい、感謝」を実感できる個人と職場づくりをめざす。

5 チームビルディング

メンバーが自発的に能力を発揮し周囲に貢献し、チーム全体の成果に結びつけるための「つながり」を再構築する。安心で生産性の高いチームをつくるために、特に対人感受性と日常の言語・非言語コミュニケーションの必要性和スキルを実習により習得する。

6-7 経営シミュレーション① 事業戦略構築、事業計画、意思決定 資金調達

製造業（自動車）の経営をチーム対抗で行う。経験や知識をフル活用して、シミュレーション上の会社経営を行う。またこの体験からの学びをどのように本業での役割につなげることができるかも振り返る。

8-9 経営シミュレーション② 顧客獲得戦略、人的リソース最適化 プロジェクト管理、事業効率（財務観点）

架空の会社を経営してみる。戦略を策定し、戦略に合致する顧客獲得を行い、且つ顧客にフィットする人材の採用と業務指示を行う。顧客と人材は他社から狙われることもあり、攻めの経営だけでなく守りについても考えることが必要。またこの体験からの学びをどのように本業での役割につなげることができるかも振り返る。

10 経営の実例に学ぶ

中小企業庁委託事業 山形県よろず支援拠点で関わった県内のビジネス成功事例について、その経営者とコーディネーターでトークセッションを行う。また、現在ビジネスの第一線でも活躍しているコーディネーターによる、経営者の視点での講演および経営のシミュレーションを通じて経営ノウハウを学ぶ。

11 DX とデジタル化の違い

デジタルは DX を成功に導く道具であること、DX は資産・人材・アイデア・技術をデジタルで繋ぎ、ビジネス目標を達成するための手段であることを理解し、また社内へ浸透させるためにはチェンジマネジメントのアプローチが必要になることを学ぶ。

12 イノベーションを起こす マインドセット

イノベーションを生み出すためには、当然行動が必要。その行動は勇気を伴うこともある。社内でイノベーションを起こすための行動について講師自身の経験を交えて学ぶ。

※山形大学アントレプレナーシップ教育研究センターが実施する『新事業創出イノベーションプログラム』の講義を、同プログラム受講生とともに受講いたします。(ZOOM 受講)

13 実践的知的財産活用術

社内に存在する知的財産の価値に気づき、それが新たな財務的価値を生み出す可能性について学ぶ。

※山形大学アントレプレナーシップ教育研究センターが実施する『新事業創出イノベーションプログラム』の講義を、同プログラム受講生とともに受講いたします。(ZOOM 受講)

14 学びの総括・クロージング 修了式・懇親会

学びのポイントの振り返り。「学んだこと」と「学びを明日からどのように活かすか」について各自事前に動画（3分以内）を作成しそれを視聴する。また動画による発表内容について質疑応答を経ることにより、学びをできるだけ記憶に残せるようにする。

(※受講者の所属企業の経営者または、担当役員も参加)

プログラム概要

履修期間

5ヶ月間

令和6年 5月24日(金) 開講
令和6年 10月25日(金) 修了 予定

受講料

20万円

※納付いただいた受講料は返付できません。

開講場所

山形大学 小白川キャンパス

受講形式

原則 対面形式 (実践重視の教育のため)

※一部、ZOOM 受講回があります。
※出席できない場合、リアルタイムでの ZOOM 参加が可能な
回もあります。

講義時間

計 60 時間

原則①～③の時間帯で開講

①金曜日 16:00-19:00 ②金曜日 9:00-17:00
③土曜日 9:00-17:00

※隔週金曜日 10 回、土曜日 4 回の全 14 回

修了要件

以下の要件を満たすこと

- (1) 全時間数のうち 8 割の出席
- (2) 各講義ごとに提出する課題の点数が
合格ラインであること

応募資格

高等学校卒業者等の大学入学資格を有している方

募集定員

30名 (一企業・団体から複数名の受講可能)

※最低開講人数は 10 名です。申込者多数の場合は選考を行うことがあり
ます。また、人数に達しない場合は実施できない可能性があります。

応募方法

- (1) 受講申込書 (所定用紙) を郵送・持参
又は、WEB 応募フォームからお申し込みください。
- (2) 受講料の納付については別途ご案内いたします。

応募締切

令和6年 4月30日 (火)



WEB 申込は
こちらから

<https://x.gd/202405241025>



講師陣



山形大学 教授
アントレプレナーシップ教育研究センター センター長

ONODERA Tadashi

小野寺 忠司

1 オリエンテーション



山形大学 准教授
アントレプレナーシップ教育研究センター 副センター長

SUGAOI Tatsuhito

菅生 達仁

3 財務 6・7 経営シミュレーション①

8・9 経営シミュレーション② 14 学びの総括



ライフマナーサポート 代表

KANAZAWA Nobuo

金沢 信雄 氏

2 組織経営 リーダーシップ 4 ヒューマンリソース開発

5 チームビルディング



山形県よろず支援拠点

チーフコーディネーター

katsuki Shinya

勝木 伸哉 氏

10 経営の実例に学ぶ



一般社団法人オフショア開発機構 理事
経済産業省 DX 認定個人事業者 (DX-2021-08-0020-01)

KOJIMA Hideharu

小嶋 秀治 氏

11 DX とデジタル化の違い



山形県よろず支援拠点

コーディネーター

Kobayashi Kazumi

小林 一三 氏

10 経営の実例に学ぶ



SCSK (株) 参与

KOMIYA Hiroyuki

古宮 浩行 氏

12 イノベーションを起こすマインドセット



明倫国際法律事務所
弁護士・弁理士

TANAKA Masatoshi

田中 雅敏 氏

13 実践的知的財産活用術

開講スケジュール

回	授業日	受講形式	開始	終了	時数 (h)	テーマ	講師
1	5月24日(金)	対面	16:00	19:00	3	オリエンテーション	山形大学 教授 小野寺 忠司
2	6月 7日(金)	対面	16:00	19:00	3	組織経営 リーダーシップ	ライフマナーサポート 代表 金沢 信雄 氏
3	6月21日(金)	対面	16:00	19:00	3	財務	山形大学 准教授 菅生 達仁
4	7月 5日(金)	対面	16:00	19:00	3	ヒューマンリソース開発	ライフマナーサポート 代表 金沢 信雄 氏
5	7月19日(金)	対面	16:00	19:00	3	チームビルディング	ライフマナーサポート 代表 金沢 信雄 氏
6	8月 2日(金)	対面	9:00	17:00	7	経営シミュレーション① 事業戦略構築、事業計画、意思決定、資金調達	山形大学 准教授 菅生 達仁
7	8月 3日(土)	対面	9:00	17:00	7	経営シミュレーション① 事業戦略構築、事業計画、意思決定、資金調達	山形大学 准教授 菅生 達仁
8	8月30日(金)	対面	9:00	17:00	7	経営シミュレーション② 顧客獲得戦略、人的リソース最適化、プロジェクト管理、 事業効率(財務観点)	山形大学 准教授 菅生 達仁
9	8月31日(土)	対面	9:00	17:00	7	経営シミュレーション② 顧客獲得戦略、人的リソース最適化、プロジェクト管理、 事業効率(財務観点)	山形大学 准教授 菅生 達仁
10	9月13日(金)	対面	9:00	17:00	7	経営の実例に学ぶ	山形県よろず支援拠点 勝木伸哉、小林一三 他
11	9月27日(金)	オンライン	16:00	19:00	3	DXとデジタル化の違い	一般社団法人オフショア開発機構 理事 小嶋 秀治 氏
12	10月 5日(土)	オンライン	11:15	12:45	1.5	イノベーションを起こすマインドセット	SCSK株式会社 参与 古宮 浩行 氏
13	10月19日(土)	オンライン	13:15	14:45	1.5	実践的知的財産活用術	明倫国際法律事務所 弁護士・弁理士 田中 雅敏 氏
14	10月25日(金)	対面	14:00	18:00	4	学びの総括、クロージング	山形大学 准教授 菅生 達仁
						修了式、懇親会	

人材開発支援助成金のご案内

企業が従業員に対して職務に関連した専門的な知識及び技能の習得をさせるための職業訓練等を計画に沿って受講させた場合、厚生労働省より「人材開発支援助成金」の支援が受けられます。

【助成内容】

- ・人材育成訓練受講経費の助成 **45%** (中小企業の場合)
- ・人材育成訓練受講期間中の賃金の助成 **1時間 760円** (中小企業の場合)

※助成額は事業規模等によって企業ごとに異なります。

【支給条件】

- ・従業員に対して職務に関連した専門的な知識及び技能の習得をさせるための職業訓練等を計画に沿って実施する企業
- ・時間数のうち8割以上の出席

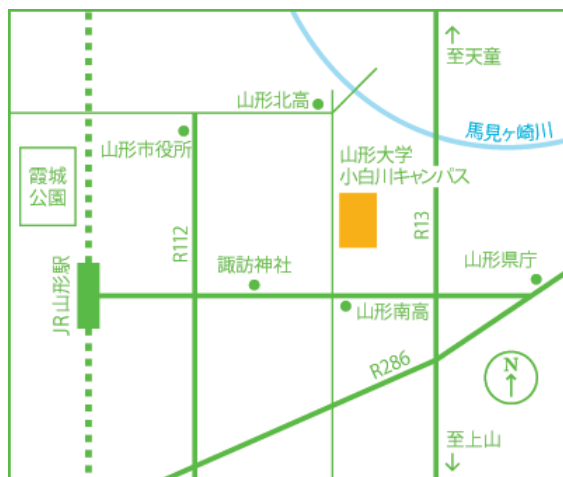
【受講前手続き】

開講日の**1ヶ月前まで**に『職業訓練実施計画届』、その他必要な書類を**労働局**へ提出

申込期日：令和6年4月24日（水）

詳細は労働局までお問い合わせください

アクセスマップ



小白川キャンパス

地域産業コア人材育成プログラムは、山形大学小白川キャンパス内での開講を予定しております。

JR 山形駅から

- 東方へ約 2.5km (徒歩約 30 分)
- ベニちゃんバス「東くるりん 東原町先回りコース」で「山大前」下車 (所要時間約 9 分)
- 市内路線バス「県庁前・県庁北口」行きで「南高前・山大入口」下車 (所要時間約 6 分)、そこから徒歩約 7 分

お問い合わせ

山形大学 総務部総務課 社会共創推進事務室 (やまがた共創塾 地域産業コア人材育成プログラム 事務局)

担当：樋口、長沼、岡崎

MAIL：yu-shakaikyousou@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

TEL：023-628-4615 FAX：023-628-4185

〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目 4-12 (法人本部棟)

やまがた社会共創
プラットフォーム



山形リカレド教育アカデミー
Yamagata Recurrent Education Academy



令和6年（2024年）4月4日

「まちの記憶を残し隊」公式ウェブサイトが完成！ ～名誉顧問に“大王”後藤ひろひと氏が就任＆山形大学公認サークルへ！～



「まちの記憶を残し隊」公式ウェブサイト



名誉顧問に就任する後藤ひろひと氏

【本件のポイント】

- 山形大学の位置する山形地域の風景・景観やそこに生きる人々の証言、ならびに山形大学の活動（特に学生生活）の記録を恒常的に収集し、山形大学附属博物館に保存することで地域の「記憶」を後世に伝えることを目的としたサークル「まちの記憶を残し隊」が公式ウェブサイトを立ち上げました。
- 公式ウェブサイトでは、活動紹介のほか、初代役員や次期役員、名誉顧問に就任する山形市の劇作家・後藤ひろひと氏のインタビューを動画で視聴いただけます。
- これからも、地域や大学と協力して未来に残すべき「記憶」を収集していきます。現在の構成員は小白川キャンパスが中心ですが、ゆくゆくは他キャンパスへも活動を波及・拡大させていこうと考えています。

【概要】

令和5年（2023年）3月1日、本学学生有志が、山形大学の位置する山形地域の風景・景観やそこに生きる人々の証言、ならびに山形大学の活動（特に学生生活）の記録を恒常的に収集し、山形大学附属博物館に保存することで地域の「記憶」を後世に伝えることを目的として、サークル（登録団体）として「山形大学まちの記憶を残し隊」を結成しました。

このたび、私たちの活動をさらに広く知ってもらうために、「まちの記憶を残し隊」の公式ウェブサイトを立ち上げました。また、サークルの活動に技術的な助言をしていただくため、山形の歴史や文化に造形が深い、山形市出身の劇作家で“大王”の愛称で知られる後藤ひろひと氏に名誉顧問に就任いただくことになりました。本ウェブサイトでは、活動紹介のほか、初代役員や次期役員、名誉顧問のインタビューを動画で視聴いただけます。

サークル創設から1年を迎えた令和6年（2024年）3月、活動を本格化させるために公認サークル化を願い出しました。これからは、学生が中心となって地域や大学と協力して未来に残すべき「記憶」を収集していきます。現在の構成員は小白川キャンパスが中心ですが、今後は他キャンパスへも活動を波及・拡大させる予定です。

【「山形大学まちの記憶を残し隊」ウェブサイト】

- URL：<https://cherry.yum-archives.net/nokoshitai/>

お問い合わせ

学生サークル「山形大学まちの記憶を残し隊」

メール：machinokiokuwonokoshitai@gmail.com

PRESS RELEASE

令和6年（2024年）4月4日

「蔵王火山共同研究所」の写真が見つかりました ～ 昭和15年、蔵王のお釜の中に開所 ～

【本件のポイント】

- 昭和15年、蔵王山のお釜の中に旧制山形高等学校の安齋徹教授によって蔵王火山共同研究所が作られた。
- 安齋ライブラリーから蔵王火山共同研究所の写真が見つかった。
- 資料、Google Earth、航空写真から研究所の位置を推定した。
- 研究所跡が現存している可能性が示唆された。



蔵王火山共同研究所の正面

【概要】

昭和15年、旧制山形高等学校の安齋徹教授によって蔵王山のお釜の中に蔵王火山共同研究所が作られました。安齋ライブラリーから研究所の地鎮祭・工事・竣工式・研究などの写真が見つかりました。資料、Google Earth、航空写真などから研究所の位置を推定したところ、研究所跡が現存している可能性が示唆されました。

【はじめに】

昭和15年、蔵王火山の活発化に伴って蔵王山のお釜の中に旧制山形高等学校の安齋徹教授によって蔵王火山共同研究所が作られました（「蔵王の御釜」 安齋徹著 昭和36年発行）。一方、研究所に備えつけられていた学生日記帖の昭和19年8月9日から、東北帝国大学の加藤愛雄助教授が航空機への着氷防止研究のため、蔵王山中腹にあった蔵王小屋を地蔵岳山頂に移築する際に斎藤報恩会から資金的援助を受けることが決まったとする記述が見つかっています（山形大学学長定例記者会見 2022年7月7日 「蔵王高層気象着氷対策研究所」は斎藤報恩会の助成によって地蔵岳山頂に移築されたとする資料がみつかりました）。しかし、研究所の詳細は不明でした。

今回、安齋ライブラリー（山形県教育センター所蔵）から研究所の地鎮祭・工事・竣工式・研究等をはじめ関連する多数の写真が見つかりました。また、既存の資料や航空写真・Google Earth等から研究所の位置を推定しました。

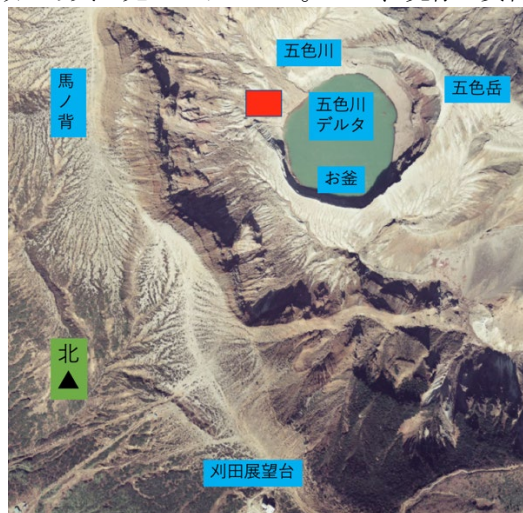


図1 ■研究所の推定位置(国土交通省 航空写真)

(お問合せ先)

山形大学蔵王樹氷火山総合研究会 副会長
山形大学名誉教授 柳澤文孝 (環境科学)
メール icemonster.white@gmail.com

【蔵王火山共同研究所】

資料1～資料3によりますと、旧制山形高等学校によって蔵王火山やお釜の観測が行われていましたが、気象の急変や機材の運搬等の困難がありました。そのため、斎藤報恩会に建設費の援助を依頼し、昭和15年に蔵王山のお釜の中に旧制山形高等学校の安齋徹教授によって蔵王火山共同研究所が作られました。昭和15年、斎藤報恩会は「蔵王火山口湖活動休止後に於ける湖沼学的変化の継続的観察(研究代表者 山形高等学校 安齋徹教授)」に対して1281円を助成しています(斎藤報恩会のあゆみ 2009)。昭和8年から昭和16年までの安齋教授への助成は80円から320円であることを考慮すると、「蔵王火山共同研究所」の建設費はおおよそ1000円と推定されます。

さて、蔵王火山共同研究所は、昭和15年8月3日、五色川の近くに建設されました(図1)。研究所の建物は東西5.4m、南北2.7mの長方形で、周囲は高さ2mのコンクリート石積みで覆われていました(図2-図14)。お釜を挟んだ五色岳の対岸は通常は涸沢ですが、雪解け期のみ淡水の五色川となります。五色川の河口にできる五色川デルタ(三角州)には船着き場が設けられており、船を使って火山湖の湖水や湖底の堆積物の研究が行われました(図15-図17)。

なお、研究所の標木には「蔵王火山共同研究所」と「蔵王火山研究所 東北帝国大学」の二種類がありました。研究所は、大学と高等学校の共同研究施設であることから、高等学校の場合は「蔵王火山共同研究所」、大学の場合は「蔵王火山研究所 東北帝国大学」と称していたと考えられます。

●資料1 「神秘の火山湖 蔵王の御釜」 安齋徹著 昭和36年12月1日 山形地質研究所発行

* お釜湖畔に火山研究所建設の企て(安齋徹)

・・・山上の観測を進めるには天候の困難からも機材の運搬の不便さからもこのお釜湖畔に近い所で小屋を建てなければ仕方がない。そこで、斎藤報恩会の方に相談をもちかけたところ、その建築補助費用は出してやろうと云うことになったので、私は六月六日仙山線にて仙台に行き虎石君を大学に訪ね、同時に化学教室の富永斉教授と物理学教室の中村左衛門太郎教授等と会談し三者相伴って斎藤報恩会に行き、吾等共同の研究所を建設することを話したところ、畑井部長の一決でその企ては採用と決まってしまった。・・・お釜湖畔に程近い五色岳と熊野岳火口壁との間にある五色川の水源を利用してお釜の火口平原地に研究所を建てることにした。ここは馬ノ背から吹き下ろす風が東にぬける風道であるから、風が猛烈であることは承知の上であるが、風のため積雪がないのと飲料水に恵まれていることからこの位置を決めたのである。・・・小舎の大きさは九尺(およそ2.7m)に十八尺(およそ5.4m)と云う長方形のもので長手を東西方向、他を南北方向に置き、その周辺を高さ二米のコンクリート石積みとなし東方に入口を設け、南北西に夫々窓をつけるようにしてある。屋根は板張りの上に杉皮を葺き、室内は石積みのところに板壁を張り、室内の北側に二段の寝台をつけることにした。・・・

* 蔵王火山研究所の竣工(安齋徹)

・・・屋上にアンテナを張ることにした。携帯ラジオを持参したからである。・・・百葉箱は観測小屋の東側に建てる予定で造ったものである・・・石塊を集めて石積みを造り、其上に材木を渡した野天便所なのである。最後に私が書いた標木を建て、これで研究所と云う外観が整った・・・東方入口の硝子戸を透して青空が見えた。・・・

* 蔵王火山研究所の落成式(安齋徹)

・・・今日は八月三日で研究所の落成式を行う日である・・・来賓者が来合わせている。読売新聞の近藤記者(注)、大工棟梁小林仲太郎氏、日本放送協会木名瀬技師、山形営林署の技師の二人・・・急崖道を熊野神社の神保社掌が態々お祓いを行うために下りて来てくれた。・・・八月四日は朝晴を利し舟を乾燥して処舎の中に運び次の調査の時まで格納した。・・・ (注) 読売新聞 昭和15年8月5日朝刊 「火山研究所 蔵王のお釜湖畔に開所」

●資料2 「蔵王火山研究所の神秘」 木名瀬著 学会月報631号(昭和15年10月号)

・・・(昭和十五年八月三日)・・・湖の左手二三百米の処に小屋が一つ見えた。・・・可成り危ない道を三十分(標高で二百数十米)許り下ると火口原の平地に出た。小屋には蔵王山共同火山研究所の指標があり、屋上に国旗が翻っていた。案内を乞うと棟梁が「先生は今舟を出して居るから行ってみましょう」というので湖岸まででかけた。・・・小屋は九尺に三間の小さなものでありが、外側に石を積んだ巖丈な構造で小屋の四方には窓を設けて観測に便にしてある。・・・

●資料3 斎藤報恩会時報(1941)171巻 p1-7 安齋徹 其後の蔵王火山活動について(下)

(六月九日)研究所の小屋の位置は過去数年間に亘り十分注意して居た所であって、飲料水は不断に湧出し、西風のため冬季積雪は殆んどなく、大水害の場合も安全な地帯である。即ち五色岳と熊野岳外輪山との間の火口原で、此所を五

色平と呼ぶことにした。先づ敷地を決定して東西南北に地割をなし、建築は正しく東西南北になるやうにしたのである。形式許りではあるが起工式の祭りを挙げ祝杯を捧げて下山の着いた・・・（八月二日）・・・蔵王火山研究所と記したる三角標柱のペンキ塗や文字の記入を行ひ之を地中に埋立てたが、更に雨露を冒して百葉箱の建設を実施し終つたのである・・・（八月三日）・・・室内で払式を挙行した・・・



図2 蔵王火山共同研究所の地鎮祭



図5 蔵王火山共同研究所の竣工式



図3 建設中の蔵王火山共同研究所
屋根にラジオのアンテナが張ってある



図6 蔵王火山共同研究所正面（南側）
窓以外は石積みで覆われている



図4 落成した蔵王火山共同研究所



図7 蔵王火山共同研究所の入口、百葉箱



図8 蔵王火山共同研究所と学生さん達



図12 融雪期にできる五色川での洗い物



図9 蔵王火山共同研究所と学生さん達



図13 五色川での炊事



図10 蔵王火山共同研究所の裏（北側）
研究所の右上（西）に馬ノ背の外輪山が見える



図14 五色川と蔵王火山共同研究所



図11 蔵王火山共同研究所の西側



図15 蔵王火山共同研究所近くにある船着き場



図1 6 五色川河口にできた三角州と観測用の船



図1 7 船によるお釜の観測

【蔵王火山共同研究所跡について】

蔵王火山共同研究所は蔵王山のお釜の中に雪解け期のみのできる五色川の近くに建設されました。研究所が撤去されたとの記録はなく、研究所跡を見たとの情報もあります。研究所は周囲を高さ2mのコンクリート石積みで覆われていたことから跡が残っている可能性が考えられます。しかし、火山活動に伴い現地での確認は難しい状況です。そこで、航空写真やGoogle Earth 3D等を用いて昭和15年の写真(写真1 8)の場所を探しました(図1 9-図2 2)。昭和15年に研究所があったと推定される場所に5m程度大きさの直方体の地形が見つかりました(図2 2)。地すべりによって地形が変わり、堆積物で覆われていますが、研究所跡の可能性が考えられます。



図1 8 五色川から蔵王火山共同研究所へ(昭和15年)



図2 0 蔵王のお釜と五色川(右下の涸沢)
(Google Earth 3D)



図1 9 蔵王のお釜 (Google Earth 3D)



図2 1 直方体の地形と五色川(右下の涸沢)
(Google Earth 3D)



図 2 2 直方体の地形 (Google Earth 3D)

令和6年(2024年)4月4日
山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. ラフさんと発見!データで深掘りかみのやまの西洋ナシ展の開催—上山市立図書館にて開催—

上山の果物作りの魅力を紹介する企画展を上山市立図書館で開催します。また、展示期間中にワークショップを開催し、上山の果物や果物栽培の魅力を楽しくお伝えできればと思います。

【1】企画展示

概要 | 上山市で栽培されている西洋ナシに焦点をあて、「栽培の歴史・文化」「味」「果樹（植物）」についてデータで深掘りしたパネルを展示します。また、それらに関連した図書を紹介します。

期間 | 2024年4月7日（土）～5月26日（日）

開館時間および休館日は上山市立図書館の開館時間に準じます

場所 | 上山市立図書館（山形県上山市二日町10番25号 二日町プラザ5階）

【2】ワークショップ [場所 上山市立図書館 視聴覚室] 講師&スタッフ：奥野貴士、山形大学の学生 *ワークショップ参加申込みは上山市立図書館へ

(1) 4月13日(土) 午後1時30分～3時30分 対象：小学生以上 | 定員：10組

「ラフさんと体験!探検マイクロワールド」

内 容：上山の果樹を顕微鏡で観察して新しい発見をしてみよう!

(2) 4月27日(土) 午後1時30分～3時30分 対象：小学生以上 | 定員：6組

「ラフさんと体験!くだものキーホルダーを3D印刷してみよう!」

内 容：3Dプリンターを使ってオリジナルのキーホルダーを作成してみよう!

(3) 5月11日(土) 午後1時30分～3時30分 対象：小学生以上 | 定員：10組

「ラフさんと体験!“かみのやま色”の絵具（インク）を作ろう!」

内 容：石や果物からオリジナルの絵具（インク）を作ろう!

(4) 5月25日(土) 午後1時30分～3時30分 対象：中高生・一般 | 定員：40組

「ラフさんと考える!データで考える上山の果樹栽培」

内 容：オープンデータから上山の果樹栽培に役立てるデータ解析&研究を解説します

2. 「最上義光講演会～最上義光研究最前線」開催のお知らせ

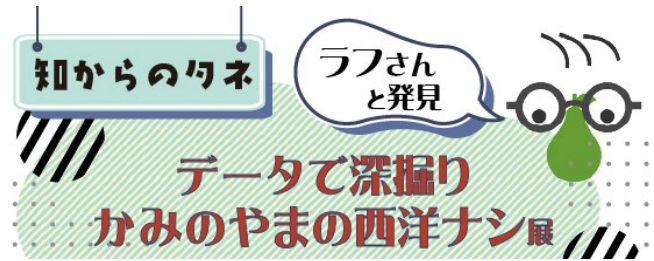
最上義光講演会は、山形の基礎を築いた最上義光、伊達政宗などについて、山形県民の認識を深めることを目的に、平成25年から年に1回開催しています。このたび、第11回目となる講演会を以下のとおり開催します。

- ・日 時 / 令和6年5月11日（土）午後1時30分～午後3時（午後1時開場）
- ・会 場 / 山形大学小白川キャンパス 基盤教育2号館221教室
- ・定 員 / 150名 事前申し込み
- ・資料代 / 500円 当日持参
- ・講 師 / 松尾剛次（山形大学名誉教授）
- ・申 込 / 申込締切：令和6年4月30日（火）

PRESS RELEASE

令和6年（2024年）4月4日

ラフさんと発見！ データで深掘りかみのやまの 西洋ナシ展の開催 —上山市立図書館にて開催—



ラフさんとは・・・果物の魅力を伝える物知り屋さんの妖精だよ。

【本件のポイント】

- 上山市立図書館の展示コーナーにて、西洋ナシに関する企画展示をおこないます
- 西洋ナシについて、歴史や味の魅力、果樹の不思議などを紹介するパネル展示
- 企画展示期間中にワークショップを開催します

【概要】

学術研究院 奥野貴士 教授は、上山市とも連携し、作物栽培支援システム（「かるほく」）開発を行うほか、大学の知見を活かし、次世代育成も視野に入れた活動を展開している。この活動を通し、上山市には個性と魅力に溢れる農家の方々がイキイキと果物を作り、そこには誇るべき果樹栽培文化があることを知った。また、果樹を含む植物には、驚きの機能や、まだ我々が理解できていない未知がある。これらの上山の果物作りの魅力を皆さんに知っていただくため、上山市で栽培されている西洋ナシに焦点を当てた企画展を、上山市立図書館で開催する。また、学術研究院 奥野貴士 教授と山形大学の学生がワークショップを開催し、上山の果物や果物栽培の魅力を楽しくお伝えする。

【開催要綱】

[1] 企画展示

概要 | 上山市で栽培されている西洋ナシに焦点をあて、「栽培の歴史・文化」「味」「果樹（植物）」についてデータで深掘りしたパネルを展示します。また、それらに関連した図書を紹介します。

期間 | 2024年4月7日（土）～5月26日（日）

開館時間および休館日は上山市立図書館の開館時間に準じます

場所 | 上山市立図書館（山形県上山市二日町10番25号 二日町プラザ5階）

[2] ワークショップ [場所 上山市立図書館]

講師＆スタッフ：奥野貴士、山形大学の学生

***参加申込みは上山市立図書館まで電話等をお願いします。（上山市立図書館：023-677-0850）**

- (1) 4月13日(土) 午後1時30分～3時30分 対象：小学生以上 | 定員：10組
「ラフさんと体験！探検マイクロワールド」
内 容：上山の果樹を顕微鏡で観察して新しい発見をしてみよう！
- (2) 4月27日(土) 午後1時30分～3時30分 対象：小学生以上 | 定員：6組
「ラフさんと体験！くだものキーホルダーを3D印刷してみよう！」
内 容：3Dプリンターを使ってオリジナルのキーホルダーを作成してみよう！
- (3) 5月11日(土) 午後1時30分～3時30分 対象：小学生以上 | 定員：10組
「ラフさんと体験！"かみのやま色"の絵具（インク）を作ろう！」
内 容：石や果物からオリジナルの絵具（インク）を作ろう！

配布先：学長定例記者会見参加報道機関

- (4) 5月25日(土) 午後1時30分～3時30分 対象：中高生・一般 | 定員：40組
「ラフさんと考える！データで考える上山の果樹栽培」
内 容：オープンデータから上山の果樹栽培に役立てるデータ解析&研究を解説します

お問い合わせ

学術研究院 教授（理学部主担当） 奥野貴士

TEL 023-628-4580 メール okuno@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

知からのタネ

ラフさん
と発見



データで深掘り かみのやまの西洋ナシ展

4月7日(日)～5月26日(日)
上山市立図書館

上山の西洋ナシについて、歴史や味の魅力、果樹の不思議など、様々な切り口からアプローチ！

ワークショップ 講演会

ナビゲーター▶▶▶

ラフさんと仲間たち

& 奥野貴士 氏（山形大学教授）



ラフさんと体験！ 探検ミクロワールド

日時：4月13日（土）13:30～15:30
内容：上山の果樹を顕微鏡で観察して
新しい発見をしてみよう！
対象：小学生以上
定員：10組

ラフさんと体験！ くだものキーホルダーを 3D印刷してみよう！

日時：4月27日（土）13:30～15:30
概要：3Dプリンターを使ってオリジナルの
キーホルダーを作成してみよう！
対象：小学生以上
定員：6組

ラフさんと体験！ “かみのやま色”の 絵具（インク）を作ろう！

日時：5月11日（土）13:30～15:30
概要：石や果物からオリジナルの
絵具（インク）を作ろう
対象：小学生以上
定員：10組

ラフさんと考える！ データで考える上山の果樹栽培

日時：5月25日（土）13:30～15:30
概要：オープンデータや“かるほく”
環境データから上山の果樹栽培に
役立てるデータ解析&研究を
解説します
対象：中学生以上
定員：40名

お問い合わせ：上山市立図書館 Tel 023-677-0850





山形大学認定都市・地域学研究ユニット 第十一回最上義光講演会

最上義光研究最前線

白鳥長久との関係に注目して



日 時

令和 6 年 5 月 11 日 (土)

午後 1 時 30 分～午後 3 時 (午後 1 時開場)

会 場

山形大学小白川キャンパス

基盤教育 2 号館 221 教室

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

定 員

150 名 事前申し込み

資料代

500 円 当日持参

講 師

松尾剛次 (山形大学名誉教授)

申 込

申込締切 : 令和 6 年 4 月 30 日 (火)

下記申込書をご記入の上、ご提出頂くか FAX でお申し込みください。

お電話・メールでも受付いたします。

その際は【氏名・郵便番号・住所・電話番号】をご明示ください。

●申込先 : 山形大学認定都市・地域学研究ユニット

TEL/FAX 023-628-4871 (月・火・木・金午前)

E-MAIL toshiken@human.kj.yamagata-u.ac.jp

主 催

山形大学認定都市・地域学研究ユニット



申込書

山形大学認定都市・地域学研究ユニット行 (FAX 023-628-4871)

令和 6 年 月 日申込

ふりがな ご氏名		電話 携帯番号	
ご住所	〒	E-MAIL	

※申込書にご記入頂きました個人情報は、適切な管理を図り、参加者名簿の作成及び本講演会に関する連絡の目的のみ使用します。